

# 中小企業動向 トピックス

## 中小企業の業況は、緩やかな改善が続く

### 第192回「中小企業動向調査」結果概要

〔2006年10～12月期実績、2007年1～3月期および4～6月期見通し〕

当公庫では、お取引先のご協力を得て、2006年12月に第192回中小企業動向調査を実施しましたので、その概要をお知らせします。

中小企業の景況感を表す業況判断D.I.は、2期連続でマイナス幅が縮小しました。売上げの好調が続き、原材料やエネルギー価格の上昇にも若干落ち着きがみられたことなどから、純益率D.I.も低水準ながら1年ぶりにマイナス幅が縮小しました。業種別にはプラスチック製品製造業、化学工業などでも改善の動きがみられます。地域別には北陸、四国といった一部地方圏にも改善の動きがみられます。

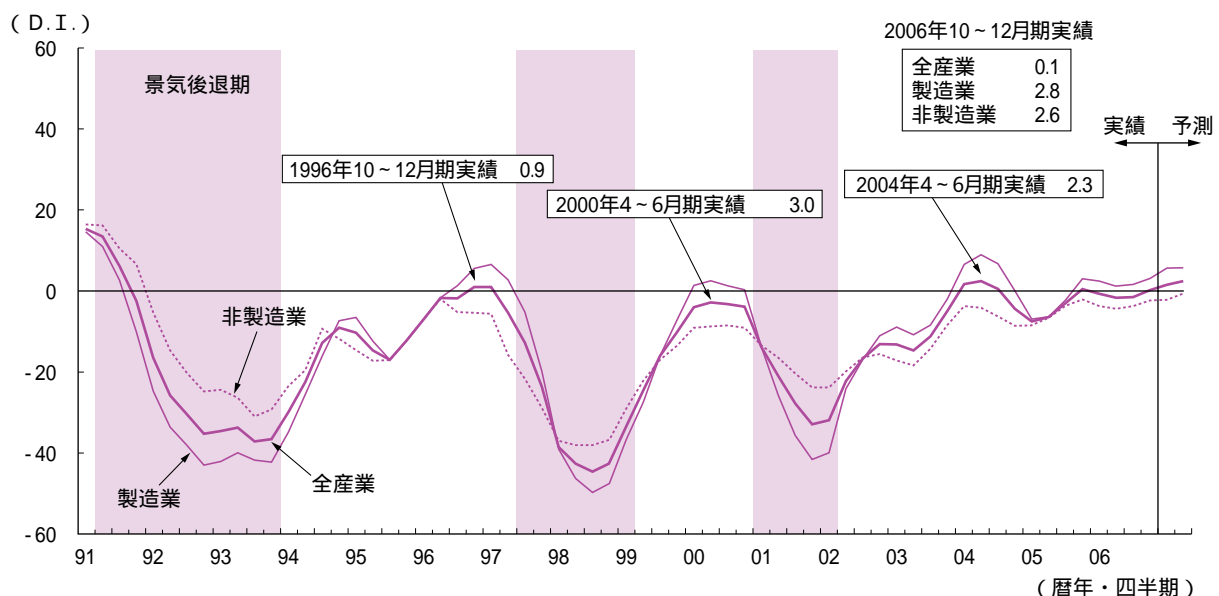
#### 業況判断D.I.は2期連続で改善

中小企業の業況を総合的に判断する業況判断D.I.は、0.1と前期実績を1.7ポイント上回り、2期連続でマイナス幅が縮小しました。

産業別にみると、製造業は前期実績から1.5ポイントプラス幅が拡大して2.8、非製造業も前期実績から1.8ポイントマイナス幅が縮小して2.6と、ともに改善しました。

先行きについても製造業、非製造業ともに緩やかな改善を見込んでいます（図表1）。

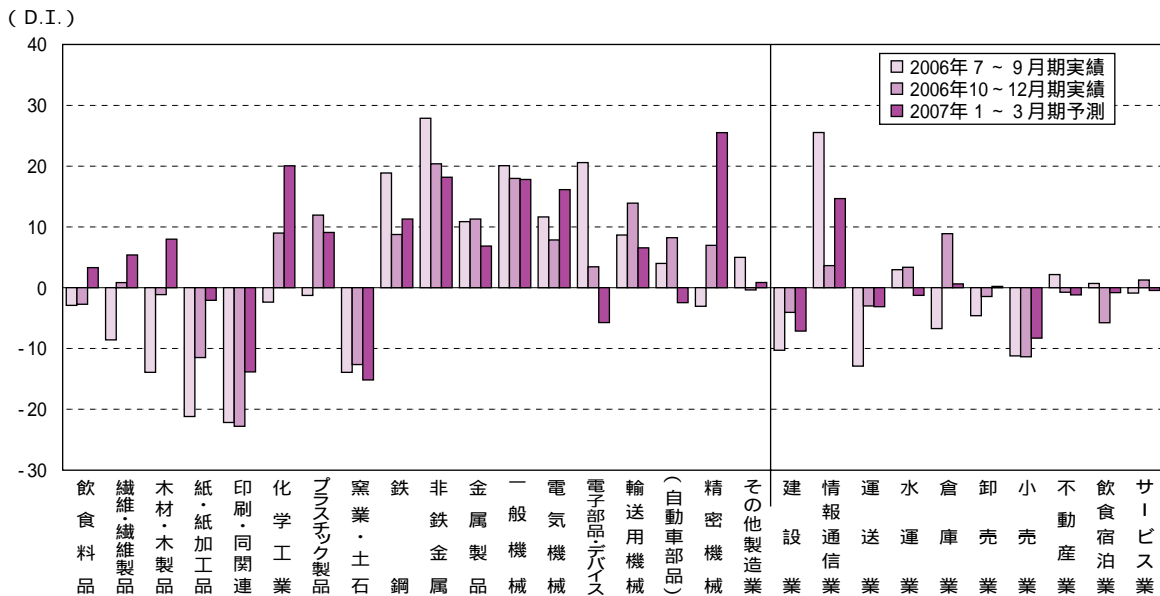
（図表1）業況判断D.I.の推移（「好転」 - 「悪化」企業割合、前年同期比、季節調整値）



製造業を業種別にみると、非鉄金属では、デジタル家電や自動車向けの受注は依然として強いことから、プラス幅は縮小したものの全業種の中で最も高いプラスとなっています。また、一般機械も工作機械、産業用機械の受注好調を背景に、高いプラスを維持しています。化学工業、プラスチック製品では、産業用資材の売上げが増加基調にあり、原材料の石油関連製品価格に落ち着きが見られることから、プラスに転じました。一方、電子部品・デバイスでは、携帯電話関連部品を製造する一部企業の業況の悪化などから、プラス幅が大きく縮小しました。先行きについては、化学工業、精密機械などでプラス幅の拡大が続く見込みとなっています。

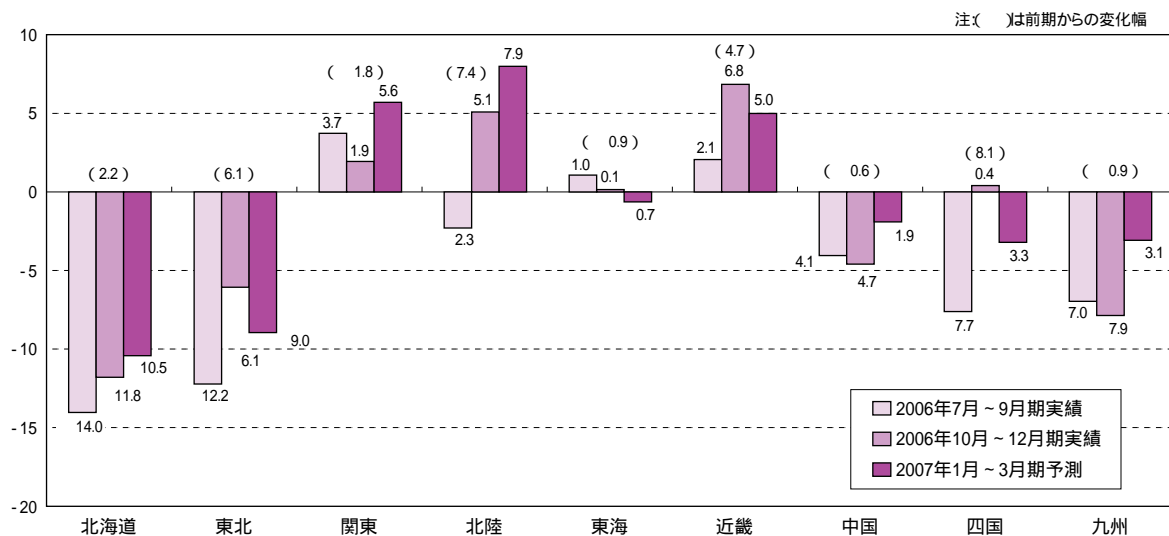
非製造業では、年末年始向け商品の荷動き好調などを背景に、運送業でマイナス幅が大きく縮小し、倉庫業でプラスに転じました。一方、情報通信業では、受注産業であるソフトウェア受託開発企業の業況の悪化からプラス幅が大きく縮小しましたが、先行きは好転が見込まれています（図表2）。

（図表2）業種別業況判断D.I.の推移（季節調整値）



業況判断D.I.を地域別にみると、好調な機械金属関連業種の割合が多い近畿でプラス幅が拡大したほか、関東、東海でもプラスを維持しており、大都市圏では堅調な動きが続いています。また、北陸、四国でマイナスからプラスとなり、東北でもマイナス幅が大きく縮小するなど一部地方圏にも改善の動きがみられました。北陸では、一般機械が好調を持続し、繊維・繊維製品でも改善の動きがみられます。四国では、水運業の好調さなどが全体を押し上げました（図表3）。

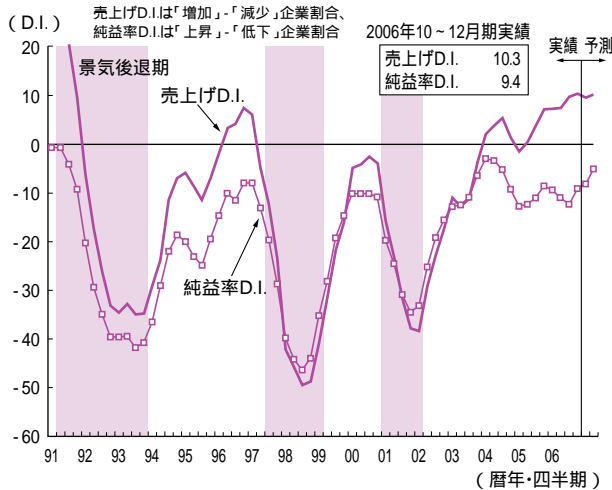
（図表3）地域別業況判断D.I.の推移（季節調整値）



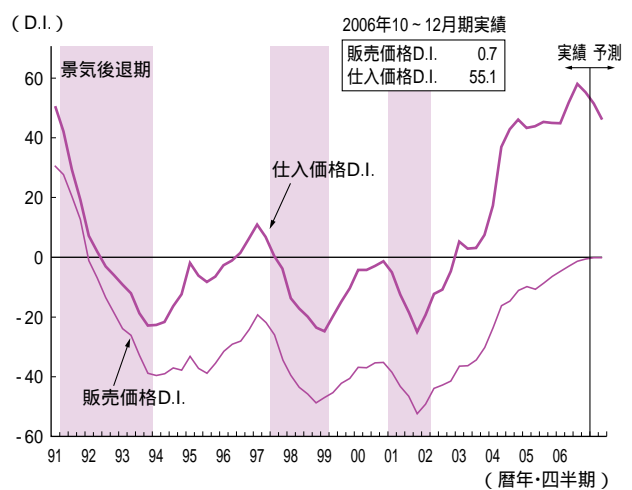
## 純益率は低水準ながら1年ぶりに改善

売上げD.I.は10.3とプラス幅が拡大し、今次回復局面のピークを更新しました。純益率D.I.も 9.4と前期に比べて3.2ポイントマイナス幅が縮小し、1年ぶりに改善しました。売上げの好調が続く、原燃料価格高騰によるコストアップに若干落ち着きがみられたことが要因として考えられます。実際、仕入価格D.I.は高い水準が続いているものの3期ぶりにプラス幅が縮小しています。また、販売価格D.I.は6期連続でマイナス幅が縮小してゼロ近傍まできており、原材料価格上昇分の転嫁を含んだ製品値上げの動きが徐々に進んでいることがうかがえ、今後も純益率D.I.はマイナス幅の縮小が続く見通しとなっています(図表4、5)。

(図表4) 売上げD.I.、純益率D.I.の推移  
(前年同期比、季節調整値)



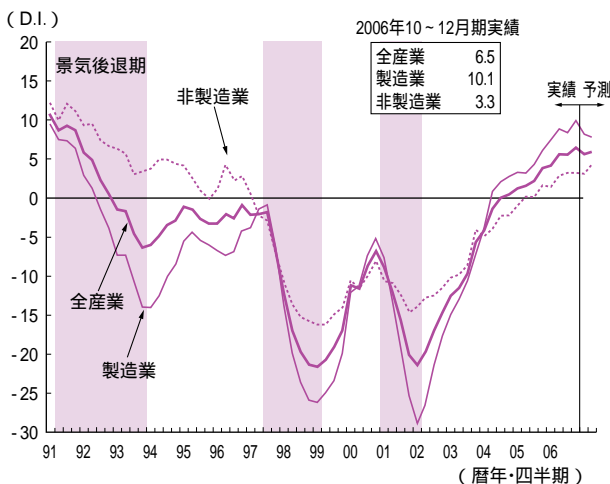
(図表5) 価格D.I.の推移  
(「上昇」-「低下」企業割合、前年同期比、原数値)



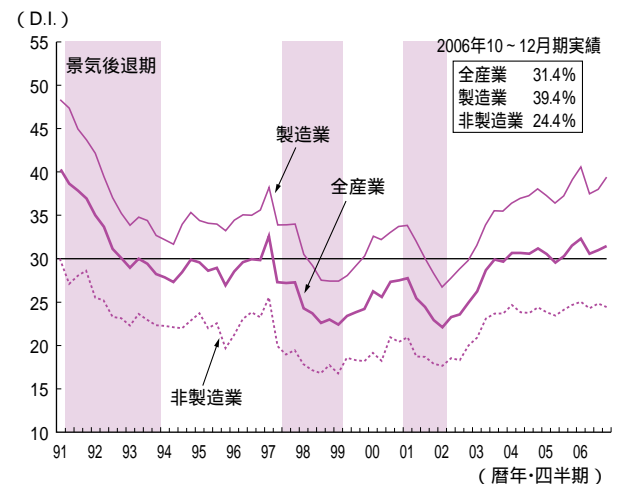
## 堅調な雇用と設備投資

従業員D.I.は、全産業で2004年10～12月期以来、9期連続のプラスとなり、今次回復局面のピークを更新しました(図表6)。設備投資実施企業割合は2期連続で上昇し、6期連続で好調の目安の水準である30%を上回っており、過去の景気回復局面と比べても高い水準を維持しています(図表7)。企業の雇用・設備投資意欲は依然強い状況が続いています。

(図表6) 従業員D.I.の推移  
(「増加」-「減少」企業割合、前年同期比、季節調整値)



(図表7) 設備投資実施企業割合の推移  
(実施企業割合、%、季節調整値)



## 中小企業の景況天気図（業種別、地域別）

（図表8）中小企業の景況天気図

### （1）業種別の景況天気図

	全製造業													非製造業									
	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業
	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	
2004/4～6実績																							
7～9 "																							
10～12 "																							
2005/1～3 "																							
4～6 "																							
7～9 "																							
10～12 "																							
2006/1～3 "																							
4～6 "																							
7～9 "																							
10～12 "																							
2007/1～3予測																							
4～6 "																							

[売上げ・純益率・資金繰りD.I.平均値]  
 快晴..... 30以上～100以下  
 晴れ..... 10以上～30未満  
 薄曇り..... -5以上～10未満  
 曇り..... -30以上～-5未満  
 雨..... -100以上～-30未満

### （2）地域別の景況天気図

	全	地域別								
		北海道	東北	関東	北陸	北海道	近畿	中国	四国	九州
2004/ 4～6 実績										
7～9 "										
10～12 "										
2005/ 1～3 "										
4～6 "										
7～9 "										
10～12 "										
2006/ 1～3 "										
4～6 "										
7～9 "										
10～12 "										
2007/ 1～3 予測										
4～6 "										

全産業の景況天気図は、13期連続で「薄曇り」となっています。産業別にみると、製造業、非製造業ともに「薄曇り」が続いています。

業種別にみると、10業種で改善しました。木材・木製品では、合板・集成材を中心に建設向けの引き合いが堅調なこと、製品価格が上昇していることから、「曇り」から「薄曇り」となりました。建設業でも、公共工事は減少しているものの民間住宅着工の堅調さを背景に、「曇り」から「薄曇り」となりました。そのほかに、飲食料品、繊維・繊維製品など5業種で「曇り」から「薄曇り」になり、化学工業、金属製品、精密機械で「薄曇り」から「晴れ」になりました。一方、非鉄金属で「快晴」から「晴れ」に、水運業、情報通信業で「晴れ」から「薄曇り」に悪化しました。

地域別にみると、北海道、東北では「曇り」、その他の地域では「薄曇り」が続いています。（図表8）

（総合研究所 板野 聡人）

「中小企業動向トピックス」に関するご意見・ご要望等ございましたら、本支店窓口までお問い合わせください。

発行：中小企業金融公庫 総合研究所 ホームページ <http://www.jasme.go.jp/>